

# 南高図書館だより

2025年6月号  
浦和南高校図書館

## 図書委員のおすすめ本



### 『夜は短し歩けよ乙女』

森見登美彦／著 KADOKAWA(角川文庫)

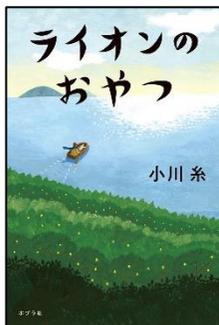
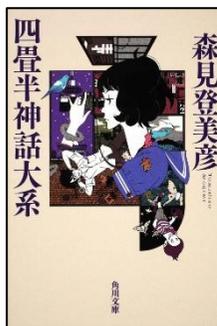
先輩である「黒髪の乙女」に恋慕の心を抱く「先輩」は、「なるべく彼女の目に止まる作戦」省略して「ナカメ作戦」を遂行しようと、木屋町、古本市、学園祭に、彼女の姿を追い求める。しかし、その作戦から起こる“偶然の出会い”をも「奇遇ですねえ！」と意に介さない様子を見せる彼女。そんな2人を取り巻く個性豊かな人々と、そこから起きる奇妙な事件が非常に魅力的な恋愛ファンタジー小説。作中の舞台の風景や、状況が分かりやすく描写されていて、読んでると自然に本の世界観へと没入させてくれる作品となっています。

せてくれる作品となっています。

### 『四畳半神話大系』

森見登美彦／著 KADOKAWA(角川文庫)

この本は、四畳半シリーズと呼ばれる人気な小説・アニメシリーズの第一作となっています。この本の魅力は、とにかくキャラクターがコミカルで生き生きとして見えることです。主人公は名前が明かされないまま「私」として、盟友であり宿敵である「小津」などの登場人物と、作者特有の複雑ながら的確な語彙、学生特有の捻くれた観点が十分に、ありありと表現されています。登場人物同士の会話に思わず吹き出してしまうようなこの本作、ぜひ手に取ってみたいかがでしょうか。



### 『ライオンのおやつ』

小川糸／著 ポプラ社

余命を宣告された主人公が、ホスピスで過ごす最後の日々を描いた物語です。毎週日曜日に出される「おやつ」を通じて、心が少しずつ癒されていきます。静かで優しい時間の中に、人生の大切なものが詰まっています。読み終えたあと心が温かくなりました。人の優しさや生きることの意味を考えさせられます。ぜひ読んでみてください。

## 図書館からのお知らせ

### 図書委員研修交流会に参加しました

6月11日(水)、浦和西高等学校の図書館で開催された、近隣10校(県立浦和、浦和西、浦和東、浦和一女、市立浦和、浦和南、浦和実業、常盤、浦和商业、浦和北)が参加する図書委員研修交流会へ、本校からも図書委員2名が参加してきました。

全体で開会式を行ったあとに、実行委員校の図書委員が企画した様々なイベント(図書館人狼、リレー小説、ウミガメのスープ、57577、カタカナージ)へと分かれ、他校との交流を深めました。脳に汗かく交流会、来年も実施予定です。興味のある人は図書委員になろう。



#### ◆◆◆主なイベント紹介◆◆◆

##### 図書館人狼

参加者が出題者から出されたお題に合う本を図書館内で探し、持ち寄った後に議論を行って、違うお題が配られた一人(人狼)を当てるゲーム。人狼本人にも、誰が人狼かは最後まで明かされません。お題は、「青春」と「恋愛」、「かっこいい」と「あつい」など。色々連想されるので、当てるのは難しい!

##### 57577(ゴーシチゴーシチシチ)

ランダムに配られる5文字のカードと7文字のカードを組み合わせ、自分で短歌を作るカードゲーム。一番楽しい短歌を作った人が勝ち。

### 出張図書館、出店!

6月2日(月)昼休みに、図書委員が2階中央廊下で出張図書館を出店しました。新刊や映像化された本などを図書館から運び、貸出もその場で行いました。2学期もやります。ぜひお立ち寄りください!



### 南高図書館模擬選挙 投票ありがとうございました!

現在開票作業中。  
結果発表を  
お楽しみに!

※南高図書館模擬選挙は、図書館で新しく買う雑誌とマンガを投票で選ぶイベントです。



知識の本

本ができるまで カラー版

新書コーナー

岩波書店編集部／編 岩波書店(岩波ジュニア新書)

物理的なモノとしての「本」のつくり方についての本。本と印刷の歴史を学び、日々進化し続ける印刷技術が使われる現場を覗いてみましょう。グーテンベルクの時代から現在まで、本を愛する人たちが読みやすく美しい本を作るためにどれだけ努力してきたのか。知ると本がますます好きになるかもしれません。2003年初版に現在までの印刷技術のデジタル改革を加えた増補版。

町の本屋はいかにしてつぶれてきたか 知られざる戦後書店抗争史

飯田一史／著 平凡社

戦後の新刊書店のつりかわりをまとめた本。かつて書店は駅前の一等地に必ず存在し、雑誌の発売日にははらっと立ち寄るような場所だった。そんな「普通の書店」の商売はどのように成立し、どんな背景から競争に敗れ消えていったのか。書店が消えた理由は、紙の本の売り上げだけではない。出版業界を巡る様々なデータを読み解き、「町の本屋」が戦後たどった道を探る。

子どもの体験学びと格差 負の連鎖を断ち切るために

おおたとしまさ／著 文藝春秋

昨今、「教育格差」に加え、「体験格差」という言葉が登場した。親たちを体験の詰め込み学習に向かわせる「呪い」の正体は何か。子どもに本当に必要な体験を探りながら、「教育格差や体験格差も笑い飛ばせるくらいに豊かな社会」(P215)を子どもたちに残す方法について考える。

ぼっちのアリは死ぬ 昆虫研究の最前線

古藤日子／著 筑摩書房

家族を守る、治療する、感染リスクを見極める…。社会性昆虫であるアリは、ヒトと似て、他者と関わり、社会のなかで生きていく。社会から出て、ぼっちになったアリはどうなるのか。分子生物学でアリ社会の謎を解く。

マンガでわかる文楽 あらすじから見どころ、歌舞伎との違いまで全部わかる

マンガでわかる文楽編集部／編 上島カンナ／マンガ 文楽協会／協力 誠文堂新光社

「文楽(ぶんらく)」は人形浄瑠璃の別名。興味はあるけど難しそう…と感じている文楽初心者のあなた！チケットの取り方から鑑賞ポイント、おすすめの演目など、マンガで全部わかります。

やなせたかしの生涯 アンパンマンとぼく

文庫コーナー

梯久美子／著 文藝春秋(文春文庫)

子どもたちが大好きなアンパンマン。自分の顔を食べさせる前代未聞のヒーローの生みの親である「やなせたかし」は、「手のひらを太陽に」を作詞するなど、詩人としても知られています。「絶望の隣は希望です！」など、生きることを肯定し、光にむかって歩き続けたその生涯を綴った本。

ボードゲームづくり入門

高橋晋平／著 岩波書店

ボードゲームを知らない人でもボードゲームを作れるように、順を追って作り方を指南してくれる本。ゲームをつくることは自分を知ること。好きなことでゲーム開発して途中で飽きてしまった場合、それは本当の関心ごとではなかったという新たな気づき。全て無駄にはなりません。

小説・文学

ありか

瀬尾まいこ／著 水鈴社

美空は一人娘のひかりと二人暮らし。毎週水曜日には、何かと世話を焼きたがる義弟の颯太が夕食を作りに来てくれる。同性が好きな彼には一緒に暮らしている人がいるらしい。実母は時々やってくるが、愚痴を言って帰るだけ。母親との関係に悩みながらもひかりを愛し育てる美空の、颯太や職場の同僚、保育園のママ友ら周りの人と関わっていく中で変化する姿を描く物語。

救われてんじゃねえよ SACHI There's No Place Like Home

上村裕香／著 新潮社

17歳の沙智は、難病の母を介護しながら高校に通っている。夜は一人でうまく歩けない母親を介助してトイレへ連れていく。父親はいるが、家事も介護もすべて沙智にまかせっきりだ。「わたしは不幸自慢スカウターで言えば結構戦闘力高めなんだと思う」(P16)。表題作のほか、成長した沙智が主人公の「泣いてんじゃねえよ」「縋ってんじゃねえよ」の全三編からなる短編集。

ぼくの家族はみんな誰かを殺してる

文庫コーナー

ベンジャミン・ステイーヴンソン／著 富永和子／訳 ハーパーコリンズ・ジャパン(ハーバーBOOKS)

ぼくたちカミングム一家は別に異常者の集まりでも、全員悪人というわけでもない。不運なだけのももいる。でも、一家全員みんな誰かを殺している。ぼくも含めて。そんな家族が3年ぶりに雪山のロッジに集まり、週末を過ごすことになった。悪い予感が当たり、ぼくらがロッジに到着した翌日、見知らぬ男の死体が雪山で発見される。家族はみんな何かを隠していて……。



ビブリオバトルを開催しました

6月9日(月)放課後、3年次図書委員がビブリオバトルを行いました。

ビブリオバトルとは「知的書評合戦」ともいわれる、本の紹介ゲームです。参加者(バトラー)が制限時間内に好きな本を紹介し、その後の投票で一番読みたいと思った人が多い本が「チャンプ本」となります。

今回は、4人前後の班に分かれて班ごとにお互い本の紹介を行いました。その後、各班のチャンプ本が次のとおり決まりました。

『入居条件:隣に住んでる友人と必ず仲良くしてください』 寝舟はやせ／著 KADOKAWA

『残り全部バケーション』 伊坂幸太郎／著 集英社

『沈黙のパレード』 東野圭吾／著 文藝春秋

『科学探偵VS. 学校の七不思議』

佐東みどり, 石川北二, 木滝りま, 田中智章／作 木々／絵 朝日新聞出版